

平成 31 年度 八千代こども国際平和文化基金事業推進懇談会会議録

- 日 時 平成 31 年 4 月 19 日（金） 午後 2 時 30 分から午後 3 時 30 分まで
- 場 所 市役所 4 階 第 2 委員会室
- 出席委員 入江幸世，栗林理恵，山下しのぶ，伊藤一男，一之宮早百合，木村昌子，
小林公孝，多田久尚，田中宏行，蜂谷美子（敬称略）
- 事 務 局 小川企画部長，井上企画部次長
井上課長，藤原主幹，安原主任主事，柴田主事（シティプロモーション課）
嶺岸課長，小林主任指導主事（教育委員会指導課）
- 会議内容 公開
- 傍聴人数 1 名（定員 5 名）

<議題>

- (1) 平成 30 年度事業報告について
- (2) 平成 31 年度事業計画について
- (3) 平成 31 年度八千代こども親善大使選考委員の選出について
- (4) その他

平成 31 年度

八千代こども国際平和文化基金事業推進懇談会会議録

<井上課長>

皆様こんにちは。会議に入る前に資料の確認をさせていただきます。

「席次表」、「委員名簿」、「八千代こども国際平和文化基金の設置、管理及び処分に関する条例」、「八千代こども国際平和文化基金事業推進懇談会設置要領」、「八千代こども親善大使設置要領」の 5 点を綴ってあります資料 1。そして、本日の議題資料を綴った資料 2 でございます。配布漏れはございませんでしょうか。

《配布の漏れなし》

<井上課長>

皆様にはすでにお知らせいたしたところですが、組織改正に伴いまして、八千代こども国際平和文化基金事業は、4 月 1 日よりシティプロモーション課が担当することとなりました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。それでは皆様お揃いですので、会議を開会いたします。

本日はお忙しい中、八千代こども国際平和文化基金事業推進懇談会にご出席をいただき、ありがとうございます。また、本会の委員への就任について、快くお引き受けいただき、併せてお礼を申し上げます。

只今より、平成 31 年度八千代こども国際平和文化基金事業推進懇談会を開会いたします。私は本日の司会をさせていただきます、シティプロモーション課課長の井上です。どうぞよろしく願いいたします。

本懇談会は、「八千代市審議会等の会議の公開に関する要領」の規定により、会議は公開となっております。本日、1 名の方の傍聴がありますのでご了承をお願いいたします。

まず初めに、委嘱状交付式を行います。

《委嘱状交付式》

<井上課長>

それでは服部市長よりご挨拶申し上げます。

<服部市長>

皆さんこんにちは。この度は2年間に渡って委員を引き受けてくださり、ありがとうございます。早速、来月15日からバンコクの子どもたちが八千代に参ります。そして秋にかけては、八千代こども親善大使を選考する大事な役割がございます。会議が始まる前に司会がお伝えいたしました通り、所管が教育委員会から企画部のシティプロモーション課に移りました。市としての方向性を全面に出すという形でよりわかりやすくなるかと思えます。これからも皆さんから忌憚のないご意見を頂き、より良い事業を進めていきますので、何卒よろしくお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。これから2年間よろしくお願いいたします。

<井上課長>

続きまして、本日初めて顔を合わせる委員さんもいらっしゃいますので、お手元に配付いたしました名簿に沿って、一言ずつ自己紹介をお願いいたします。

なお、発言される際には、お手元のマイクのボタンを押していただきますよう、よろしくお願いいたします。

《委員自己紹介》

<井上課長>

以上で、各委員さんの自己紹介を終わります。ここで、市長は次の公務のため、退席となりますので、よろしくお願いいたします。

《市長退席》

<井上課長>

続きまして、4月1日付で人事異動がございましたので、事務局職員を紹介いたします。

《事務局職員紹介》

<井上課長>

それでは、議事に入る前に座長の選出を行います。座長の選任につきましては、当懇談会設置要領第5条第2項において、委員の互選により、選任することとなっております。座長の選任について、どなたかご意見のある方はいらっしゃいますか。

《小林委員挙手》

<井上課長>

小林委員さん、どうぞ。

<小林委員>

座長の選任につきまして、私から御一方推薦申し上げます。蜂谷委員でございます。蜂谷委員は、昨年も含めて今まで座長として活躍されました。それから教育問題につきましても非常に精通されております。また、バンコク都にも訪問をしているということで、バンコク都と共通のノウハウを持っていらっしゃると思います。よって私は蜂谷委員を座長として推薦したいと思います。皆様いかがですか。

《一同拍手》

<井上課長>

ありがとうございます。ご異議がございませんので、蜂谷委員さんに八千代こども国際平和文化基金事業推進懇談会の座長をお願いしたいと思います。

それでは、蜂谷委員さん、座長席へ移動してください。

《蜂谷委員 座長席へ移動》

<井上課長>

当懇談会では、座長が会議の議長を務めることとなっておりますので、ここからは、議事の進行をよろしくお願いいたします。

<蜂谷議長>

只今、座長を仰せつかりました蜂谷でございます。当懇談会設置要領第6条に基づき、議長を務めさせていただきます。委員の皆さま方のご協力で、当懇談会の議事をスムーズに進めたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

議題(1)「平成30年度事業報告」について、指導課より説明を求めます。

<小林指導主任主事>

教育委員会指導課の小林でございます。指導課で実施しておりました「八千代こども国際平和文化事業」について説明いたします。

「平成30年度事業報告」について、お手元の資料1ページをご覧ください。

第1の柱である「国際平和への理解」についてですが、国際平和作文コンクールと親善大使国際平和展を行いました。国際平和作文コンクールは、広報やちよの4月15日号で募集いたしました。応募数は、小学5年生1,749編、中学2年生1,571編の3,320編でした。1

次審査は教育委員会指導課全職員，2次審査は指導課長と校長3名で行い，60名を入選として7月18日に表彰いたしました。次に，第15回親善大使国際平和展につきましては，3月2日，3日にオーエンス八千代市民ギャラリーにて開催いたしました。平成30年度の八千代こども親善大使一人一人が，タイを訪問して学んだ事や世界がより良くなるために自分が出来る事は何か，また，将来，どのように生きていきたいかなどを発表しました。また，歴代八千代こども親善大使による交流会を開催し，平成30年度の八千代こども親善大使とダイラックアンで小グループを作り，本年度のバンコクこども親善大使を迎えるに当たり，ダイラックアンとして何が出来るかを考え，意見を共有しました。展示につきましては，バンコク都との交流の歴史や友好都市提携についての展示や平成30年度八千代こども親善大使が事前学習で学んだことを展示しました。

2つ目の柱，「国際文化交流の推進」について説明いたします。まず，バンコクこども親善大使受入につきましては，5月23日から5月30日に，親善大使12名，同行職員8名を受入れました。日程は3ページから4ページの通りです。続いて，八千代こども親善大使のバンコク都派遣につきましては，1月23日から1月30日に親善大使12名，同行職員6名がタイ王国バンコク都を訪問いたしました。訪問日程は5ページの通りです。大使たちは，都庁や都議会への表敬訪問，学校訪問，ホームステイ等を通じて交流を深めてまいりました。また，訪問先として，在タイ日本国大使館やJICA訪問を行いました。派遣前には研修を7回行い，1月20日の出発式では，タイについて調べて分かったことや実際にタイに行って学習していきたいこと，また，親善大使としての抱負を述べ，市長をはじめ，教育長，大使の家族，大使在籍校教職員に見ていただきました。

最後に3つ目の柱である「国際協力」につきましては，八千代子どもサミットの取り組みと連携しながら，より良い地球にしていけるために，自分達にできることを考えました。

なお，平成30年度本事業全体の予算額は7,161,000千円，決算額は6,123,328円でした。以上で報告を終わります。

<蜂谷議長>

只今の説明について，ご質問またはご意見ありませんか。

ご意見等がないようですので，議題(2)「平成31年度事業計画」について，シティプロモーション課より説明を求めます。

<安原主任主事>

議題2「平成31年度事業計画」についてお手元の資料，7ページをご覧ください。

まず，「1 国際平和への理解」についてですが，昨年同様，国際平和作文コンクールと親善大使国際平和展を行います。「(1)『国際平和作文コンクール』」は，広報やちよ4月15日号で募集いたしました。今年度は課題DVDを「ユニセフと地球のともだち」とし，小学生はDVDを見て考えたことを，中学生は今自分が地域に貢献していること，又は，これから

自分が世界に貢献できることを書きます。応募資格は市内在住の小学 5 年生及び中学 2 年生です。応募者の中から 60 名を入選者として表彰いたします。また、入選者の作文を文集としてまとめ、来年の 3 月に発行します。なお、⑧の「その他」にありますように、中学 2 年生の入選者及び八千代子どもサミットのメンバーより 12 名を選考し、八千代こども親善大使としてバンコク都へ派遣いたします。「(2)『親善大使国際平和展』」につきましては、平成 32 年 2 月 29 日、3 月 1 日の 2 日間、オーエンス八千代市民ギャラリーで開催いたします。歴代親善大使の会「ダイラックアン」と市の共催で、本市とバンコク都との交流の歴史がわかるパネル展示などを行い、広く、市民の方々にも事業の風景などをみていただきたいと考えております。

次に、「2 国際文化交流の推進」について説明いたします。資料 8 ページをご覧ください。「(1) バンコクこども親善大使受入」につきましては、5 月 15 日から 22 日の日程で、12 名のこども親善大使と、7 名の同行職員を迎える準備を進めております。詳細につきましては、資料 9, 10 ページに記載しておりますので、説明は省略させていただきます。「(2) 八千代こども親善大使のバンコク都派遣」につきましては、平成 32 年 1 月 22 日から 29 日の日程で、中学 2 年生を 12 名派遣する予定となっております。交流内容につきましては、資料 11 ページにございます通り、昨年と同様の内容を考えておりますが、今後、5 月にバンコクの皆さんをお迎えした際に、調整してまいります。また、八千代こども親善大使をバンコク都へ派遣するに当たり、今年の 11 月から来年の 1 月にかけて、事前研修を 12 回程度行う予定です。研修では、タイの言葉や文化、親善大使としての心構えなどを学ぶほか、八千代市や日本の文化をタイの方々を紹介できる力を身に付けられるよう取り組んでまいります。

最後に「3 国際協力」につきましては、互いに協力し、共に参加する取り組みの在り方を考えてまいります。

なお、本事業の平成 31 年度の予算額は、資料 12 ページにございます通り 6,584,000 円となっております。

次代を担う子どもたちが世界に目を向け平和の大切さを知り、他国の文化を尊重する心を養うことにより、世界に貢献する国際人に成長することを願い、本事業を推進してまいります。以上で説明を終わります。

<蜂谷議長>

ただいまの説明について、ご質問またはご意見ありませんか。はい、伊藤委員。

<伊藤委員>

伊藤と申します。中学生を 12 名派遣するということですが、以前は小学校 5 年生と中学校 2 年生を同時に派遣して、中学生が小学生の面倒をみながら研修をやったり、バンコクへ行く経験をしました。中学生になった経緯をお教え頂きたい。

<嶺岸指導課長>

指導課の嶺岸です。この経緯につきましては、俯瞰的な部分で検討して参りました。小学校 5 年生においても、たくさんのキャリアを決めていく大きなきっかけ、又は場作りであったということもありますが、子どもサミットの中での経験、そして何よりも中学校 2 年生の発達段階を考慮し、中学校 2 年生という多感期の中で学校ごと、11 校公立があり、私立の松陰中 1 校を入れた 12 名の中で、結果的には学校 1 名ずつ派遣したということになります。この辺りについても基金懇談会委員のご意見を頂く中で、今年度このような計画がシティプロモーション課の方でありますけれども、ご検討いただくことは十分にあるかと考えております。

<蜂谷議長>

ありがとうございました。その他いかがでしょうか。

ご意見等ないようですので、先ほどの意見については、今後意見を踏まえて進めて頂ければと思います。

続きまして、議題 (3)「八千代こども親善大使選考委員の選出」についてシティプロモーション課より説明をお願いいたします。

<安原主任主事>

平成 31 年度八千代こども親善大使選考委員の選出についてご説明いたします。

これまで教育委員会指導課では、八千代子どもサミット及び八千代教育サミット担当の校長 4 名、ALT2 名、懇談会委員座長 1 名、教育次長の計 8 名で「八千代こども親善大使」の選考を実施しておりました。

会議のはじめにご案内いたしました。事業がシティプロモーション課に移管されたことに伴い、この親善大使の選考方法について見直しを図るべきかを含め、10 月の選考会に向けて検討して参りたいと考えております。

<蜂谷議長>

ただいまの説明について、ご質問またはご意見ありませんか。はい、木村委員。

<木村委員>

木村と申します。この中学生 12 名の選考の方法によりますと、昨年の立派な報告会を見て思ったのですが、みんな優等生ですね。学校で生徒会長をしたり、学校の代表として責任を持ち、出ていくこともとても素晴らしいことだと思うのですが、学校以外の物差しで測ってもらい、そこで八千代の代表、日本の代表となって巣立って行く子どもがいることも、とても大事なことだと思います。ですので、学校の評価以外の目線で審査するチャンスも与

えて頂けたらと思います。

<蜂谷議長>

この意見も踏まえて進めていくということでお願いします。

他いかがでしょうか。はい，一之宮委員。

<一之宮委員>

一之宮と申します。今年度は，中学生 12 名ということで選考の予定なのでしょうか。

<井上次長>

4 月 1 日から移管となりましたが，4 月 15 日号の広報で作文コンクールの周知を行い，選考をしていかなければならない中で，原稿を出す時点においては指導課の担当でありました。また，検討をする時間もございませんでしたので，今年度は，見直しやご意見を活かしてすぐという形にはできないため，31 年度の実施については今まで通りの形となります。

<蜂谷議長>

よろしいでしょうか。はい，山下委員。

<山下委員>

今年度は間に合わなかったということですが，今後，派遣される年代などを検討される機会はあるということでしょうか。

<井上次長>

今頂戴したご意見や前年度中に頂いたご意見の他に，ダイラックアンからもご意見を頂いております。またバンコク側がどう考えているのか等を含め総合的に判断していかなければならないと考えておりますので，検討については今年度行って参ります。

<蜂谷議長>

よろしいですか。他いかがでしょうか。

それでは最後に，議題 (4)「その他」でございますが，何かございましたら遠慮なく発言をお願いいたします。

<一之宮委員>

今年中学生が派遣されると決まっているということで了解しました。今後検討して頂くに当たり，我が子を振り返りますと，タイへ派遣する親善大使として選考されるということ

も知らずに面接を受け、「選考されました」というお手紙を頂いて親子共々事態を把握したという状態でしたが、この様な機会もないので行かせていただきました。

意欲が前向きにある子でなくても、どこかで何かを持っている子が発掘されるかもしれません。そういった子どもたちが作文で何かの機会を得るということも考えられますので、全体から選んで頂きたいという希望がございます。今後ご検討いただく時の参考になればと思います。ありがとうございます。

<蜂谷議長>

私からもよろしいでしょうか。学校現場にいた時に私自身がバンコクへ行かせて頂いた経験がありますが、平和作文はやはり力が入りました。子どもたちにいい作文を出してほしい。大使の選考面接に行く前に校長面接もしていました。どんな面接をするかわからないなりに、子どもたちにバンコクのことや八千代市の良さを調べさせたり、行った後に自分がどうやって活動していくのかを考えさせました。ですので、この平和作文に当たっては各学校でも、小学5年生や中学2年生の担当の先生方も力が入ります。指導課もこの事業や各学校の先生方を後押しして、良い面接ができるようにしていただけたらと思います。それから、海外に目を向けることもすごく大事なことです。八千代の中でどれだけ若い人たちが活躍していくのかということも繋がっていくと思います。その辺のところも考えて、教育的交流という形で進めてきたかと思えますし、いろんな意見を統合して来年度どうしていくのかをじっくり検討して頂ければと思います。よろしく願いいたします。

他いかがでしょうか。はい、入江委員。

<入江委員>

今年度ということなので、今後のことを考えまして、小学校5年生も行けたらいいなと思っております。それからホームステイについてですが、ホームステイの受け入れについて、私たちの時はみんな受け入れたくて受け入れていましたが、あまり受け入れ先がないようにも聞いております。それは例えば中学2年生で行った子が中学3年生になって5月に受け入れということになると、その時期に修学旅行と重なり、受け入れができなかったりするのではないかなと思います。日程の検討も一つだと思いますが、あるいは小学校5年生でしたら、小学校6年生の受け入れの際に、運動会と重なりますが、その運動会に連れて行き、それを一緒に楽しんだりもできますので、考えて頂けたらと思います。

また、子どもサミットや生徒会長のお子さんは、その時点でもう光が当たっているという言い方は変ですが、活躍ができるお子さんなんだと思います。一之宮委員もおっしゃっていましたが、そうでないお子さんでも何かを持っていて、それを引き出すきっかけになればいいなと思いますので、今後ご検討いただきたいと思います。

<蜂谷議長>

他にいかがでしょうか。はい、木村委員。

<木村委員>

息子も親善大使に選ばれるまでは人前に出て何かをしたりするタイプではなかったのですが、帰ってきてぐいぐいと変わりました。タイに行かせて頂き、初めて外から日本をみて、「日本はすごいと思った」という報告を書きました。そこから人生のベクトルをぐっと上げ、家族でホームステイを何度も繰り返しながら、いいお勉強をさせて頂きました。また、外からの日本、日本がどうあるべきか、そういった話を日常的にする機会に恵まれました。子どもの物差しにしては大きなスケールになってしまいますが、日本や八千代のことを考える、大きな視野で物事を考えるチャンスを与えてもらいました。ですので、この事業を末永く続けて頂きたいと思っております。小学校5年生から参加させて頂きたいなと思います。

<山下委員>

子どもが17年度に行った後、暫く親善大使の事業が身近にありませんでしたが、3年前にこの席に座らせて頂いた時に中学生のみが派遣されていることを知り驚きました。また、英語を中心にやっていることにも違和感があります。具体的な研修の内容や、バンコクへ行った中でどういったプレゼンが行われているかもわかりませんが、せっかくタイに行くのになぜタイ語でなく英語なのか。訪問する先の小学生がどれほど英語がわかり、こちらの英語のスピーチを理解してもらえるかはわかりませんが、もっと現地の人言葉を大事にしていかれたらいいかなと思っておりましたので、その辺りも検討して頂けたらと思います。

<蜂谷議長>

昨年度の様子を少しお話ください。

<嶺岸指導課長>

昨年度の研修を中心にお話をさせて頂きます。結論から申し上げますと、英語の勉強も行いましたが、基本的にはタイ語を中心にして研修をしました。タイ語を話せる先生を講師にお招きし、タイ語の自己紹介や討議を行いました。向こうに行ってみてわかりましたが、タイではあまり英語を使っている場はありませんでしたので、タイ語を子どもたちに教える研修をして本当に良かったと思っています。また、小学校を現地訪問した際は、その時に中学生も来ていて、近くの高校生が司会進行をして地球環境についての討議を1時間することができました。その他に踊りやプレゼンテーションを用意していきましたが、そういう場で携帯電話を持っている子どもたちが検索しながら必死にコミュニケーションを図る姿を見て、我々も勉強になりました。子どもたちにとっても、どうすれば言葉や思いが通じていくのか勉強になったなど。言葉で伝えるのも重要ですが、そこに躊躇しないで思い切りノン

バーバルコミュニケーション、身振り手振りや表情でも伝わります。今後シティプロモーション課が研修を用意しているということですので、我々もオブザーバーとして子どもたちの研修に関わっていただけらなと思います。

<田中委員>

平和作文コンクールですが、応募者数をみると小学校が 1,749 名、中学生が 1,571 名でたくさんの生徒さんに応募頂いています。これまで教育委員会さんの方で、今後はシティプロモーション課の方でやるということですが、一次審査などは人数的なものですとかその辺の体制は大丈夫なのでしょうか。

<井上次長>

一次審査はざっくりとした見方ですので、その中から次の審査と進んでいきます。ある程度は学校の方でチェックを入れて頂きますので、それを参考にしながら作文が上手いだけでなく、中身も見ながらやっていく予定でございます。

<多田委員>

2つありまして、1つは派遣される生徒がどの言葉を研修していくのかということですが、英語は国際共通語ですから、中学生だったらある程度すでに習っている訳ですね。あとは訪問先の言葉、これがもしできればそれが一番いいと思いますから、英語とタイ語両方を準備して行かれた方がいいのではないかと思います。それからバンコクから来られる親善大使の方は言葉についてどういう準備をして来られるのですか。日本語を勉強して来られますか。

<井上次長>

日本語は勉強していらっしゃいます。英語は堪能ではないです。結局はタイ語と日本語が多いと感じております。

<多田委員>

タイの方も東南アジアの国と同じように英語があまり得意ではないと思います。ですので、タイ語と英語を準備された方がいいのではないかと私は思います。それと受け入れるホストファミリーは最近は少ないという話ですが、どういう状態でしょうか。

<井上次長>

今年度のことしかわかりませんが、指導課から引き継いだ時には、6家族必要なところ2家族しか決まっていなかった状況でした。

<多田委員>

基本的に受け入れ側に同年代の子どもがいればよいと思いますが、必ずしもそこにこだわらずに、受け入れたいと積極的に考えている家族があれば、そこを利用して頂くのもいいのではないかと思います。

<井上次長>

今年度は、お子さんが大きくなったご家庭にもお願いしております。

<木村委員>

今年度また引き受けさせて頂くことになりまして、去年もそのようにしたのですが、ご近所の小学生とか中学生を呼び、1日一緒に過ごせるようにしたりですとか、そういう形でもできますので、お子さんがいらっしゃる、いらっしゃらないに拘らなくても楽しくできる方法はあると思います。

<蜂谷議長>

今年度は5月ですが、もう決まりましたか。

<井上次長>

決まりました。

<蜂谷議長>

このバンコクの受入・派遣事業については「広報やちよ」にも載っておりますので、目に留めていただきながら、人から伝えていく、そんな繋がりを近所で作っていくのも一つの方法かなと思います。

では最後に事務局より連絡などがありましたらお願いします。

<安原主任主事>

こども親善大使の相互交流事業につきまして、様々な行事が予定されております。

委員の皆様もお時間が許すようでしたら、学校交流会やさよならパーティー、国際平和展などにお越し頂き、子どもたちの交流の様子や成長する姿をぜひご覧になってください。そして、この交流事業が末永く続きますようお力添えをどうぞよろしく願いいたします。本日は大変お忙しい中、ありがとうございました。

<蜂谷議長>

以上を持ちまして、平成31年度八千代こども国際平和文化基金事業推進懇談会を閉会とさせていただきます。長時間に渡りご協力頂きありがとうございました。